

共謀罪の廃案を求める6. 12街頭演説会を開催

連合北海道、民進党北海道及び北海道農民連盟の三団体は、6月12日、参議院において15日にも共謀罪法案が強行採決される状況を受け、札幌市大通西4丁目において、法案の廃案を求める街頭演説会を、約400名の参加のもと開催した。

主催者挨拶にたった連合北海道出村良平会長は「国会で審議すればするほど懸念や疑念が深まり、プライバシーや表現の自由を侵害する恐れについても真摯に答弁することなく、国民の不安は払拭されていない。私達は政府の暴挙を決して認めてはならない。何としても皆の力で、参議院においてこの法案を廃案に追い込んでいこう。」と訴えた。

続いて、民進党北海道市橋修治幹事長より、国会での審議状況について報告がされ「この法案は思想信条の自由をねじ曲げ、表現の自由を頑なにするな



ど明らかに憲法違反。刑法の基本理念を根底から覆し、また一般市民が監視の対象になるなど極めて大きな問題がある。安倍政権は国民の声に耳を貸さず、数の力で押し切ろうとしているが、これを認めずこの法案を廃案にするため全力をつくす。」と述べた。最後に出村会長によるこの法案の強行採決を決して許さないとの決意を込めた団結ガンバローで集会を締めくくった。

終了後、参加者は市内をデモ行進し、共謀罪法案反対や、安倍政権の独裁を許さないなど、市民にアピールし理解を求めた。